就職活動応援特集

地域と住民を守る挑戦を

NJS
仙台事務所　サブ・リーダー
石田　晃啓さん

■フィーリングを大事に

大学で衛生工学を学んでいたこともあり、環境・衛生分野に絞り込み就職活動を行っていました。自治体とメーカー・コンストラクターの間に立ち、事業全体を俯瞰して戦略の策定や計画の立案に携わることができる水コンサルタントの仕事に興味・関心を抱き、まずは会社説明会を数社回ってみました。NJSの印象・雰囲気が特に良く、波長が合いそうだと感じました。働き方を聞いた際に「仕事量は多いよ」という正直すぎる回答に好感を得たのもありますが。

確かに仕事量は多い方だと思いますし、納期の関係で年度末等に残業が集中することもあります。ただ、フレックスタイム制・在宅勤務・育児休業等の制度を利用しやすい雰囲気があり、労働環境としては恵まれているなと感じています。仕事量は多くてもそれに対応した評価制度と報酬体系となっていると思います。

■雨の分野で活躍

新卒から6年ほど名古屋で過ごし、2年前に仙台へ配属されました。下水道計画全般に携わっていますが、最近は浸水対策、特に浸水シミュレーション業務が仕事の大きな割合を占めています。気候変動等により東北地方でも毎年のように浸水被害に悩まされていることもあり、今非常に関心が高いですね。

浸水シミュレーションは浸水要因を特定した上で対策案を複数検討し、その検討案ごとの効果を解析・検証するものです。その結果を基に雨水排除におけるボトルネックを解消するため、最適な雨水ポンプ場や雨水幹線の新設・増設等を提案します。

最上川氾濫の被災現場を目の当たりにし、被害の深刻さに心を痛めるとともに、自身が手掛ける仕事は災害から地域住民を守る大事な仕事なのだということを強く意識させられましたね。

■貪欲に、熱い想いで

NJSは一言で言えば、下水道ではどこにも負けたくないという熱い想い、貪欲さのある会社です。そのため、最先端の技術を他社よりも一歩、二歩も先に取り入れ、挑戦する社風があります。官民連携分野では高知県須崎市でコンセッション事業に参画していますし、コロナ禍に脚光を浴びた下水サーベイランスなど、新領域へも積極的に取り組んでいます。

現状に満足することなく、新技術・ビジネスに挑戦する姿勢こそ顧客ファーストの表れなのだと思います。それは求められる人材にも言えることだと思います。挑戦を厭わない若手の方々とぜひ一緒に働きたいですね。

商品たる知識を丁寧に扱う

オリジナル設計
関西支店　エーエム推進課　主任
山根　優さん

■今年から新たな業務に

大学時代に環境工学を専攻し、主に廃棄物や水環境の分野を学んでいました。もともと水に興味があり、研究室ではメタン発酵を研究していたことから、下水道関係の設計業務を仕事にしたいと思うようになりました。

オリジナル設計に入社して今年で9年目になります。最初の3年間は石川県の事務所に配属され、下水道管路の耐震設計の詳細診断、公営企業会計への移行事務支援といった業務を担当していました。現在は大阪に転勤して6年目になり、これまでの5年間は主に下水道管路の詳細設計業務を担当していましたが、今年からエーエム推進課に異動し、ストックマネジメント計画策定やウォーターPPP導入可能性調査といった新しい業務に携わっています。

■認識のズレを防ぐ

大阪事務所に転勤してから、下水道管路約2・6キロメートルの詳細設計に携わったことが記憶に残っています。工事のボリューム自体がこれまで経験したことのない大きさで、同じ地下埋設物の水道管やガス管の移設が必要となったことから、全事業者を集めて協議を行い、綿密な調整に基づいた設計を行いました。結果的に、手戻りのないような完成度の高い図面を作り上げることができ、仕事への自信を深めることができました。

仕事を行う上では、お客さまとの認識のすり合わせをきちんと行うことを大事にしています。業界には数々の専門用語があり、例えば「ストックマネジメント」は略して「ストマネ」と呼ぶことが多いのですが、お客さまへのメールや電話では、略さずに正式名称で伝えるように心がけています。コンサルタントの売り物は「知識」です。この知識の伝え方一つで、相手への伝わり方が変わり、お互いの認識に少しずつ齟齬が生まれてしまうこともあるのです。コロナ禍でコミュニケーションが声と声だけに限定された時期があったからか、より強く思います。

こうした認識のすり合わせは社内でも行っています。今年からウォーターPPP関連業務を担当するに当たり、事務所内のメンバーを集め、ウォーターPPPに関する勉強会を開きました。さまざまな課題を抱えているお客さまに対し、最適なゴールを提案するためにも、まずは自分たちの間の認識を互いに一致させることが大事だと考えています。

■都市活動に不可欠な仕事

私がオリジナル設計と出会ったのは、同じ大学の卒業生の就職実績があると知って応募したのがきっかけでした。しかし、今ではこの仕事が都市の活動を支えるためになくてはならない仕事だと感じています。華やかさには欠ける仕事かもしれませんが、目立つのが苦手な自分の性格にも合っていると思っています。まずは1dayインターンシップ等に気軽に参加していただき、上下水道コンサルタントという仕事を知ってもらえればと思います。

各社の誇る、現場で活躍する社員

新技術の社会実装に貢献

荏原実業
技術開発本部　事業化推進部　係長
井上　伍央さん

■生物への関心から

私は学生時代、大学院で生命科学に関する研究に従事しており、就職活動に当たっては「研究で培った知識を生かせる仕事」に就くことを目指して活動を進めました。荏原実業は、微生物が重要な役割を果たす上下水道設備・水処理の業界において事業を展開しており、研究開発体制も充実していると感じたことから入社を決めました。入社して今年で10年目になりますが、当時の知識や経験は、日々の業務の中で大いに生きています。

■微生物の研究を現場で

当社の主たる研究開発拠点は、川崎市にある中央研究所と環境計測技術センターおよび木更津市にあるかずさ生産技術センターです。私は入社後、新人研修を経て中央研究所に配属されました。ここで最初に扱ったのは「生物脱硫」に関する研究です。

下水汚泥から再生可能エネルギーとして消化ガスを生成する際、消化ガスに含まれる硫化水素を除去する必要があります。この硫化水素の除去において活躍するのが、微生物の力を使う生物脱硫装置です。

入社当初、私は実際に稼働している処理場の一角で、この装置の研究をしていました。当社は京都や栃木等のさまざまなフィールドで実験を行っており、研究所の外でも活躍できる場があります。社会人としてのファーストキャリアで、大学院での知見を実地で生かすことができる機会を得たことはとても幸運なことでした。

■技術の社会実装に貢献

現在所属している事業化推進部は、研究開発で得られた成果の社会実装を目指す「事業化」を行う部署で、私は「停電時マンホールポンプ（MHP）起動支援システム」を担当しています。

これは電源を喪失したMHPに、可搬型蓄電池を接続して応急的に起動することを可能にするシステムで、災害等で停電が発生した際にマンホールから水が溢れることを防ぐ防災・減災ソリューションです。

私の仕事は、社内外の関係各所と連携して技術資料を作成することや、営業担当者とともにお客さまに説明を行うことです。豪雨や地震等の災害が全国で相次ぐ中、社会の強靱化に貢献するこのシステムの普及に携わる今の仕事にやりがいを感じています。また、新しい事業に挑戦する部署であることから幅広い知識と自由な発想が求められ、中央研究所で培ってきた知識や経験を発揮できていると感じています。

■挑戦できる環境で

当社のメーカー部門では、研究から販売に至るまでのさまざまな段階に、挑戦できる場があります。また当社には、計画的に連休を取得するためのプラスワン休暇制度など、自分のペースで仕事を進めるための制度も整っています。上下水道に関心があり、自分の手で何かに挑戦したいという方は、ぜひ入社いただきたいと思います。